

# 第3回 国際森林年国内委員会

## が開催されました



国際森林年国内委員会後の記念撮影（アファンセンター前）



委員会会場となったアファンセンター

第3回国際森林年国内委員会（座長 佐々木毅・国土緑化推進機構理事長）が、8月3日（水）、長野県信濃町のC・W・ニコル・アファンの森財団「アファンセンター」で開催されました。

国内委員会が都心を離れて開催されるのは今回が初めてのことです。委員会では、各地で開かれている国際森林年の取組状況が報告されるとともに、国民に向けたメッセージ・宣言について話し合われました。また、出席した国内委員は、国内テーマの『森を歩く』を実践しました。

委員会は、国内委員のC・W・ニコル氏が長野県信濃町内の手入れされずに放棄された里山を購入して30年近くかけて整備してきた「アファンの森」の一面にある「アファンセンター」を会場に、国内委員が12名出席の下で開催されました。

今回の森林内での開催は、養老委員の「国内テーマ『森を歩く』」とは、お膝元から実践してみせるべき」との意見がきっかけになりました。

委員会に先立ち、今回の開催地からの特別ゲストである、阿部



アファンの森を散策

◎第3回 国際森林年国内委員会が開催されました



国際森林年国内委員会の様子

守一長野県知事及び松木重博  
信濃町長が挨拶。委員会では、  
皆川芳嗣林野庁長官から国際森  
林年の取組状況及び国民に向け  
たメッセージ・宣言を发出する  
に当たっての事務局案が説明さ

れました。これを受けて各委員  
は主にメッセージの内容につい  
て議論を交わしました。  
委員からは、「森林の水土保全機  
能の重要性を伝えるべき」、「国民  
の意識が森から離れている。わか  
り易い言葉で伝えるべき」や、「心の底から好き  
でなければ林業は続か  
ない。こういう人材を  
育てていかなければな  
らない」、「一人一人が意  
識して国産材を使わな  
ければならない。森林  
を伐って使うことの重  
要性を強調したい」など  
多くの意見が出されま  
した。

これらの意見を踏ま  
え、次回の国内委員会  
で国民に向けたメッ  
セージや宣言などが決  
定される予定です。  
また、今回は会議と  
合わせて『森を歩く』を  
実践するプログラムも  
国内委員に提供されま  
した。初日、会議の前  
後に、アフターの森を  
散策し、植物や生物の

観察などから森の恵みを感じ、森  
の価値をより深く体感するプログ  
ラムが行われました。翌日は黒姫  
高原で森林メディカルトレーナー  
の指導の下、森林の癒し効果や、  
森林の中での呼吸法など健康増進  
法について、森林セラピーを体験  
し、国内委員自らが改めて森林の  
役割や重要性を認識しました。

国内森林年国内委員会における配  
付資料や議事録は次のページから  
ご覧になります。

<http://www.rinya.naff.go.jp/j/kaigai/2011/yf.html>



森林メディカルトレーナーによる指導（黒姫高原）



森林セラピー体験（黒姫高原）



歩道を歩きながらの森林セラピー体験（黒姫高原）